

様 式 F - 7 - 1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成26年度）

1. 機関番号

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 基盤研究(C) 4. 補助事業期間 平成25年度～平成27年度
5. 課題番号

2	5	3	8	1	1	4	0
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 社会的排除と包摂の観点からみた高校中退問題に関する研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
9 0 2 1 1 9 2 9	サカイ アキラ 酒井 朗	教職総合支援センター	教授

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
3 0 1 7 3 5 7 9	ホサカ トオル 保坂 亨	千葉大学・教育学部	教授

9. 研究実績の概要

研究実施計画に従い、各班に分かれて作業を行った。各班の進捗状況や知見は、研究会で共有した。

酒井班では、引き続き被保護世帯のケースファイルから分析を行った。その結果、対象者の17.1%は高校非進学あるいは高校中退であり、そのキャリアパス（移行パターン）は、求職・アルバイト型、更生保護・医療・福祉型、妊娠・育児型、編入型に分類された。また、沖縄県立泊高校通信制課程におかれている高等学校生徒就学支援センターを訪問し、高校中退対策に関する聞き取り調査を行った。本センターでは、高等学校での就学継続に困難や悩みを抱えた生徒を受け入れ、訪問指導や連絡指導を通して、高校復帰を支援するシステムが構築されていた。

保坂班では、高校教育への包摂という観点から、定時制高校、地域連携アクティブスクール、単位制高校を対象として分析を行った。定時制高校では、適応的に過ごした生徒のレジリエンスを構成する要因・条件を分析した。地域連携アクティブスクールでは、高校入学後の欠席および転退学の状況を分析した。その結果、中学校時代に長期欠席経験がある生徒の欠席が大幅に減少し、中には皆勤の生徒も存在することが分かった。また、単位制高校では、生徒の在籍状況の把握方法について精査し、単位制高校における在籍状況を共通の統計調査で把握することは困難であることが改めて浮き彫りとなった。

このほか、社会的排除に関する理論的検討を行い、その観点から見た場合の現在の教育がかかえる課題について考察を行った。